

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	スポーツ国際展開基盤形成事業			担当部局庁	スポーツ庁	作成責任者				
事業開始年度	平成27年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官(国際担当)付	参事官(国際担当) 八木 和広				
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日策定) スポーツ立国戦略(平成22年8月26日策定)					
主要政策・施策	-			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際的地位の向上、国際競技大会等の招致・開催、スポーツを通じた国際交流・協力等の我が国のスポーツ国際政策を統合的に展開し、その効果を最大限に高めるため、IOC、IPC、国際競技連盟(IF)、国内外の政策・情報を収集・分析し、共有・活用する国際情報収集・分析拠点を形成し、戦略的に発信する基盤を構築する。これらの基盤を活用し、IF役員等の選挙、国際的な人材の育成及び新たな国際競技大会の招致等をオールジャパンで戦略的に支援する体制を整備する。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	(1)IF等役員ポスト獲得支援 (2)IF等事務局スタッフ派遣支援 (3)スポーツ国際政策推進基盤の形成 ①IOC、IPC、IF、諸外国政府等とNF等とのネットワークの強化及び情報収集・発信能力の向上を支援し、IF等役員ポスト獲得、国際人材養成、国際競技大会等の招致・開催、スポーツを通じた国際交流・協力等、我が国のスポーツ国際政策の展開の促進に必要な基盤を形成するための調査・研究等を行う。 ②スポーツを通じた国際協力施策についての先進的な事例を研究し、既存の取り組みの効果検証及び今後の展開の在り方の検討を行うとともに、その成果を活かした国際人材の育成プログラムを開発する。 ③国際戦略推進の国家間交渉及び意思決定をリードするため、政府間会合を開催する。									
実施方法	委託・請負									
予算額・執行額 (単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	109	147	147	140	140			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計		109	147	147	140	140			
	執行額		88.2	70	76.5					
	執行率(%)		81%	48%	52%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		81%	48%	52%						
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由						
	スポーツ振興事業委託費	132	132	※金額は単位未満四捨五入していることから、合計が一致しない場合がある。						
	職員旅費	6	6							
	諸謝金	1	1							
	委員等旅費	0.6	0.6							
	庁費	0.1	0.1							
計		140	140							
活動内容 (アクティビティ)	IF等役員ポスト獲得支援: 各国内競技団体(NF)に対して国際競技大会・国際会議の機会を活用した選挙活動に必要なサポート等を実施することにより、IF等の役員ポストを獲得する。									
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	IF役員選挙活動に必要なサポート等を実施することにより、IFの役員ポストを獲得する。	国際競技団体等における日本人役員数	活動実績	人	35	35	37			
			当初見込み	人	32	35	35	37	37	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	IF等役員ポストの獲得支援に関する一件当たりのコスト			単位当たり コスト	円	1,342,767	766,702	1,208,309	1,785,454	
IF等役員ポスト獲得支援事業執行額 /選挙活動に必要なサポート実施件数			計算式	執行額 /件数	46,996,842 円 /35人	26,834,582円/35人	44,707,451円/37人	66,061,782円/37人		

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	IF役員の選挙活動に必要なサポート等を実施することにより、IFの役員ポストを獲得する。	当該年度IF役員選挙において、支援対象としたNFのうち、IF役員ポストを獲得した割合		成果実績	団体	9	5	14	-
		目標値	団体	9	5	14	-	-	
		達成度	%	100	100	100	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	本事業の事業計画書及び事業完了報告書等								
活動内容 (アクティビティ)	IF等事務局スタッフ派遣支援: IOC、IPC、IF等に人材を派遣して実務を経験させ、国際的な実務能力及び人的ネットワークを有する人材を養成する。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	国内スポーツ団体の優秀な人材をスポーツ統括団体に派遣し、次世代のIF役員候補者となる人材を育成する。	国際競技団体等への事務スタッフ派遣者数		活動実績	人	0	0	0	
			当初見込み	人	2	2	2	3	3
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	IF等事務局への派遣支援に関する一人当たりのコスト IF等事務局スタッフ派遣支援事業執行額 ／国際的スポーツ団体等への派遣人数			単位当たり コスト	円	-	-	-	1,900,000
			計算式	執行額 /人数	-	-	-	5,700,000円/3人	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	スポーツ統括団体に派遣することにより、次世代のIF役員候補者を育成する。	本プログラムを通じた国際競技団体等での事務スタッフポジション獲得数		成果実績	人	0	0	0	-
			目標値	人	2	2	2	-	-
			達成度	%	0	0	0	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	本事業の事業計画書及び事業完了報告書等								
活動内容 (アクティビティ)	スポーツ国際政策推進基盤の形成: スポーツを通じた国際協力施策についての先進的な事例を研究し、既存の取り組みの効果検証及び今後の展開の在り方の検討を行うとともに、その成果を活かした国際人材の育成プログラムを開発する。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	ポジション獲得に向けた活動に対する専門的知見を獲得することで、将来のIF役員候補者となる人材を育成する。	国際人材育成プログラムを通して支援した対象者数		活動実績	人	8	8	17	
			当初見込み	人	10	8	10	15	15
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	国際人材育成プログラムにかかる一人当たりのコスト 人材育成プログラムの開発事業執行額／国際人材育成プログラムを通して支援した対象者数			単位当たり コスト	円	540,651	890,956	261,333	300,000
			計算式	執行額 /人数	4,325,210円/8人	7,127,650円/8人	4,442,667円/17人	4,500,000円/15人	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	スポーツ統括団体に派遣することにより、次世代のIF役員候補者を育成する。	当該年度IF役員選挙において、支援対象としたNFのうち、IF役員ポストを獲得した割合		成果実績	人	9	5	14	-
			目標値	人	9	5	14	-	-
			達成度	%	100	100	100	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	本事業の事業計画書及び事業完了報告書等								
政策 評価 書 URL 該当箇所	政策	11 スポーツの振興							
	施策	11-2 スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_11-2.pdf					
			該当箇所	達成目標3					

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、スポーツ基本計画の「スポーツを通じた国際社会の調和ある発展への貢献」において、国際的な政策・ルールづくりに積極的に参画し、スポーツを通じた国際交流・協力を戦略的に展開することが明記されるなど、政策の優先度が極めて高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国内競技団体(NF)が国際競技連盟(IF)の要職ポストを獲得することを支援し、情報戦略の観点からの競技力強化を図るためには、統括競技団体及び中央競技団体との連携を図りながら事業を進めることが重要であることから、国が総合的に推進していく必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、スポーツ基本計画の「スポーツを通じた国際社会の調和ある発展への貢献」において、国際的な政策・ルールづくりに積極的に参画し、スポーツを通じた国際交流・協力を戦略的に展開することが明記されるなど、政策の優先度が極めて高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	本事業は、IF役員ポストの獲得等により、国際スポーツ界における我が国の影響力を強化する等を目的としており、国が、NFが行う選挙活動に必要なサポートを実施することは妥当である。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	なお、支出先の選定に当たっては、本事業をより効果的・効率的に推進するため、十分な公告期間を確保した上で、企画競争を前提とする公募を行い、その妥当性・競争性を確保した。結果的に一部の事業について一者応札となり、その企画提案について、技術審査委員会で審査を実施した。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	支出(委託)先の選定に当たっては、十分な公告期間を確保した上で公募(企画競争)を実施しており、その妥当性や競争性を確保している。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	委託事業の契約及び委託額の確定手続きに当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その妥当性について適切にチェックを行っている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	委託額の支出に当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その合理性について適切にチェックを行っている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	委託事業の委託額の確定手続きに当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、参加を計画していた国際競技大会、IF総会、展示会等が延期・中止またはオンライン開催となり、渡航回数が大幅に少なくなったため、不用率が大きくなった。ただし、事業期間中に渡航ができない代わりに、オンラインセミナーやヒアリングなど柔軟に変更を行い、適切に事業を実施した。
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	委託事業の契約及び委託額の確定手続きに当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その効率化について適切にチェックを行っている。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	新型コロナウイルス感染症により思うような渡航ができなかったものの、オンラインによる効果的かつ積極的なコミュニケーションを通じて国際的な人的ネットワークの構築し、日本人役員数は目標を達成することができた。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	オンラインミーティングにおける会議室費用など、出席人数に合わせて複数場所での見積もりを取る等の精査を行っている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	出席予定としていた会議体や国際競技大会、展示会などオンライン開催になったり、延期・中止となるなど、不透明な状況が継続したため、大幅に執行率が低くなったものの、柔軟に計画変更を行い、活動を継続的に実施した。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	各団体から四半期ごとに計画した進捗状況について報告を受け、情報共有等を図り、事業の効果的な運営を行っている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	

点検・改善結果	点検結果	事業の成果実績は目標を達成し、事業の成果が十分に活用されていることから、事業の有効性は確保されている。委託事業の契約及び委託額の確定手続きに当たっては、事業計画書、完了報告書により事業経費の費目・使途の内容を審査し、その妥当性と合理性を確認している。
	改善の方向性	事業内容及び事業経費の費目・使途の内容をより厳密に審査し、事業の効率性を高めることとする。事業期間中は事業者と緊密に連絡を取り合い、柔軟に計画の見直しや進捗状況及び事業経費の執行状況を確認し、適宜必要な助言を行うことにより、事業者が成果目標を達成できるよう促していく。

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

の事業改善の方向性	この事業は、成果目標が設定され、複数年にわたり実績が目標を上回っているものの、成果目標が事業目的の達成につながっているのか明確ではないため、事業の成果を適切に測るために一層の工夫が必要と考えられる。よって引き続き成果指標の見直しの工夫をすべきである。
-----------	---

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

改年度内改善を促す	事業の実施状況や内容を踏まえ、事業の目的をさらに明確化するよう検討する。
-----------	--------------------------------------

備考

<参考>
 スポーツ国際戦略について：https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/001_index/bunkabukai003/gaiyou/1408957.htm
 スポーツ立国戦略について：http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/1297182.htm
 第3期スポーツ基本計画について：https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1372413_00001.htm
 <その他>
 IF等事務局スタッフ派遣支援については、令和元年度、2年度、3年度に支出がなかったため、実績の記載がない。

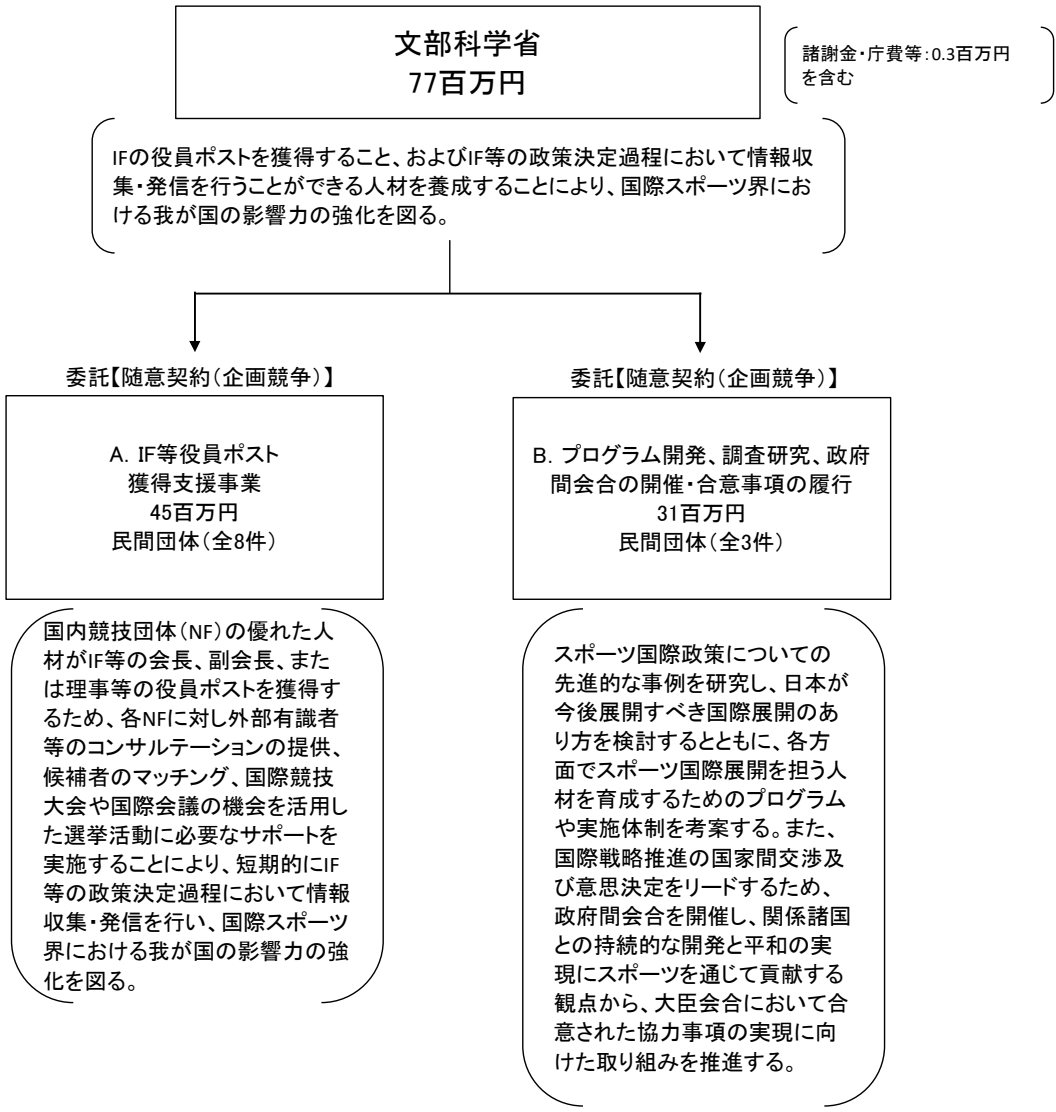
関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	新27-0036			
平成28年度	328			
平成29年度	319			
平成30年度	318			
令和元年度	文部科学省 - 0312			
令和2年度	文部科学省 0314			
令和3年度	2021 文科 20 0338			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・用途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A. 公益財団法人日本体操協会			B. 日本体育大学		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
旅費	航空券、宿泊費、移動費	18	人件費	人件費	8
通信運搬費	Wi-Fiレンタル関連費、運搬費	4	雑役務費	翻訳費、ホームページ制作費等	2
諸謝金	翻訳費、通訳費	4	一般管理費	一般管理費	1
消費税相当額	消費税相当額	3	諸謝金	体育教師会議、障がい者スポーツ会議等	0.8
雑役務費	海外旅行傷害保険、銀行送金手数料等	2	消費税相当額	消費税相当額	0.7
一般管理費	一般管理費	0.7	借損料	PC、Wi-Fiレンタル	0.3
自己調達額	自己調達額	▲ 12			
計		19.7	計		12.8

